

農地法第3条の規定による許可申請書

令和 年 月 日

枕崎市農業委員会 殿

譲渡人 住所  
氏名

譲受人 住所  
氏名

下記農地（採草放牧地）について を  
したいので、農地法第3条第1項に規定する許可を申請します。

記

1 申請者の氏名等（国籍等は、所有権を移転する場合に譲受人のみ記載してください。）

申請者	氏名	年齢	職業	住所	国籍等	在留資格又は特別永住者
譲渡人						
譲受人						

2 許可を受けようとする土地の所在等（土地の登記事項証明書を添付してください。）

所在・地番	地目		面積 (㎡)	対価、賃料等の額 (円) 10a当たり	所有者の氏名 又は名称 (現所有者が登記簿 と異なる場合)	所有権以外の使用収益権 が設定されている場合	
	登記簿	現況				権利の種類・内容	権利者の氏名 又は名称

3 権利を設定し、又は移転しようとする契約の内容と事由の詳細

1. 権利を設定し、又は移転しようとする時期	令和 年 月 日	許可次第
2. 対価	円	3. 賃借料等の給付の種類及び額
4. 契約期間	令和 年 月 日 から 令和 年 月 日	
5. 水田裏作の耕作期間の始期及び終期	始期：令和 年 月 日 終期：令和 年 月 日	
6. 当該水田の表作及び裏作の作付概要	表作： 裏作：	

譲渡人の事由	(1) 自作地有償		営農資金	8	(2) その他の場合 (自作地無償・小作地)	譲受人の事由	
	自作地相互の交換	1	と資金をた必要	農地購入資金			9
	参加農地所有適格法人への出資等	2		相続分家資金			10
	兼業による経営縮小	3		災害に起因する資金			11
	農業廃止	4		療養その他生活資金			12
	労力不足	5		その他の資金			13
	耕作不便、低生産地のため	6	相手方の要望				14
	自作地以外との交換	7	その他				15

## 【記載要領】

- 1 法人である場合は、住所は主たる事務所の所在地を、氏名は法人の名称及び代表者の氏名をそれぞれ記載し、定款または寄付行為の写しを添付（独立行政法人及び地方自治体を除く。）してください。
- 2 国籍等は、住民基本台帳（昭和42年法律第81条）第30条の45に規定する国籍等（日本国籍の場合は、「日本」）を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国（内国法人の場合は、「日本」）を記載してください。
- 3 競売、民事調停等による単独行為での権利の設定または移転である場合は、当該競売、民事調停等を証する書面を添付してください。
- 4 記の3は、権利を設定又は移転しようとする時期、土地の引渡しを受けようとする時期、契約期間等を記載してください。また、水田裏作の目的に供するための権利を設定しようとする場合は、水田裏作として耕作する期間の始期及び終期並びに当該水田の表作及び裏作の作付に係る事業の概要を併せて記載してください。



農地法第3条の規定による許可申請書（別添）

I 一般申請記載事項

【農地法第3条第2項第1号関係】

1-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等が所有権等を有する農地及び採草放牧地の利用の状況

所有地		農地面積 (m <sup>2</sup> )	田	畑	樹園地	採草放牧地面積 (m <sup>2</sup> )
	自作地					
	貸付地					
		所在・地番	地目		面積 (m <sup>2</sup> )	状況・理由
			登記簿	現況		
非耕作地						

所有地以外の土地		農地面積 (m <sup>2</sup> )	田	畑	樹園地	採草放牧地面積 (m <sup>2</sup> )
	借入地					
	貸付地					
		所在・地番	地目		面積 (m <sup>2</sup> )	状況・理由
			登記簿	現況		
非耕作地						

1-2 権利を取得しようとする者及びその世帯員等の機械の所有状況、農作業に従事する者の数等の状況

(1) 作付（予定）作物、作物別の作付面積

	田	畑		樹園地		採草放牧地
作付(予定)作物						
権利取得後の面積 (m <sup>2</sup> )						

(2) 大農機具又は家畜

数量	種類						
確保しているもの	所有						
	リース						
導入予定のもの (資金繰りについて)	所有						
	リース						

(3) 農作業に従事する者

① 権利を取得しようとする者が個人である場合には、その者の農作業経験等の状況						
農作業歴	年	農業技術修学歴	年	その他 ( )		
②世帯員等その他 常時雇用している 労働力(人)	現在	(農作業経験の状況: )				
	増員予定	(農作業経験の状況: )				
②臨時雇用労働力 (年間延人数)	現在	(農作業経験の状況: )				
	増員予定	(農作業経験の状況: )				
④ ①～③の者の住所地、拠点となる場所等から権利を設定 又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間				平均	km	約 時間

【農地法第3条第2項第2号関係】 (権利を取得しようとする者が農地所有適格法人である場合のみ記載してください。)

2 その法人の構成員等の状況 (別紙に記載し、添付してください。)

【農地法第3条第2項第3号関係】

3 信託契約の内容 (信託の引受けにより権利が取得される場合のみ記載してください。)

--

【農地法第3条第2項第4号関係】（権利を取得しようとする者が個人である場合のみ記載してください。）

4 権利を取得しようとする者又はその世帯員等のその行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況

(1) 農作業へ常時従事する者の氏名	(2) 年齢	(3) 主たる職業	(4) 権利取得者との関係	(5) 従事日数								
(6) その者の農作業への従事状況	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間												
その者が農作業に常時従事する期間												

【農地法第3条第2項第5号関係】

5 農地又は採草放牧地につき所有権以外の権原に基づいて耕作又は養畜の事業を行う者（賃借人等）が、その土地を貸し付け、又は質入れしようとする場合には、以下のうち該当するものに印を付けてください。

- 賃借人等又はその世帯員等の死亡等によりその土地について耕作、採草又は家畜の放牧をすることができないため一時貸し付けようとする場合である。
- 賃借人等がその土地をその世帯員に貸し付けようとする場合である。
- その土地を水田裏作（田において稲を通常栽培する期間以外の期間稲以外の作物を栽培すること。）の目的に供するため貸し付けようとする場合である。

表作の作付内容	裏作の作付内容

- 農地所有適格法人の常時従事者たる構成員がその土地をその法人に貸し付けようとする場合である。

【農地法第3条第2項第6号関係】

6 周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響を以下に記載してください。

【参考】

※ 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における経営面積の状況（一般）

(1) 権利取得後において耕作の事業に供する農地の面積の合計（㎡）

権利を有する農地の面積	権利を取得しようとする農地の面積	計

(2) 権利取得後において耕作又は養畜の事業に供する採草放牧地の面積の合計（㎡）

権利を有する採草放牧地の面積	権利を取得しようとする採草放牧地の面積	計

**II 使用貸借又は賃貸借に限る申請での追加記載事項**

権利を取得しようとする者が、農地所有適格法人以外の法人である場合、又は、その者又はその世帯員等が農作業に常時従事していない場合には、I の記載事項に加え、以下も記載してください。

(留意事項)

農地法等第3条第3項第2号に規定する条件そのた適正な利用を確保するための条件が記載されている契約書の写しを添付してください。また、当該契約書には、「賃貸借契約が終了したときは乙はその終了の日から〇〇日以内に、甲に対して目的物を現状に復して返還する。乙が現状に復することができないときは、乙は甲に対し、甲が現状に復するために要する費用及び甲に与えた損失に相当する金額を支払う。」、「甲の責めに帰さない事由により賃貸借契約を終了させることとなった場合には、乙は、甲に対して賃借料の〇年分に相当する金額を違約金として支払う。等を明記することが適当です。

**【農地法第3条第3項第2号関係】**

8 地域との役割分担の状況

地域の農業における他の農業者との役割分担について、具体的にどのような場面でどのような役割分担を担う計画であるか以下に記載してください。

(例えば、農業の維持発展に関する話し合い活動への参加、農道、水路、ため池等の共同利用施設の取決めの遵守、鳥獣被害対策への協力等について記載してください。)

--

**【農地法第3条第3項第3号関係】** (権利を取得しようとする者が法人である場合のみ記載してください。)

9 その法人の業務を執行する役員又は重要な使用人のうち、その法人の行う耕作又は養畜の事業に常時従事する者の氏名及び役職名並びにその法人の耕作又は事業への従事状況

氏 名	役 職 名	その者の耕作又は養畜の事業への従事状況		
		その法人が耕作又は養畜の事業（労務管理や市場開拓等も含む。）を行う期間	そのうちその者が当該事業に参画・関与している期間	
			直近の実績	見込み
		年 月	年 月	年 月
		年 月	年 月	年 月
		年 月	年 月	年 月
		年 月	年 月	年 月
		年 月	年 月	年 月

### Ⅲ 特殊事由により申請する場合の記載事項

10 以下の何れかに該当する場合は、該当するものに印を付し、Ⅰの記載事項のうち指定の事項を記載するとともに、それぞれの事業・計画の内容を「事業・計画の内容」欄に記載してください。

(1) 以下の場合、Ⅰの記載事項全ての記載が不要です。

- その取得しようとする権利が地上権（民法（明治29年法律第89号）第269条の2第1項の地上権）又はこれを内容を同じくするその他の権利である場合  
（事業・計画の内容に加えて、周辺の土地、作物、家畜等の被害の防除施設の概要と関係権利者との調整の状況を「事業・計画の内容」欄に記載してください。）
- 農業協同組合法（昭和22年法律第132号）第10条第2項に規定する事業を行う農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同項の委託を受けることにより農地又は採草放牧地の権利を取得しようとする場合、又は、農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同法第11条の50第1項第1号に掲げる場合において使用貸借による権利若しくは賃借権を取得しようとする場合
- 権利を取得しようとする者が景観整備機構である場合  
（景観法（平成16年法律第110号）第56条第2項の規定により市町村の指定を受けたことを証する書面を添付してください。）

(2) 以下の場合、Ⅰの1-2（効率要件）、2（農地所有適格法人要件）以外の記載事項を記載してください。

- 権利を取得しようとする者が法人であって、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地における耕作又は養畜の事業がその法人の主たる業務の運営に欠くことのできない試験研究又は農事指導のために行われると認められる場合
- 地方公共団体（都道府県及び地方開発事業団を除く。）がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を公用又は公共用に供すると認められる場合
- 教育、医療又は社会福祉事業を行うことを目的として設立された学校法人、医療法人、社会福祉法人その他の営利を目的としない法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該目的に係る業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合
- 独立行政法人農林水産消費安全技術センター、独立行政法人家畜改良センター又は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合

(3) 以下の場合、Ⅰの2（農地所有適格法人要件）以外の記載事項を記載してください。

- 農業協同組合、農業協同組合連合会又は農事組合法人（農業の経営の事業を行うものを除く。）がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を稚蚕共同飼育の用に供する桑園、その他これらの法人の直接又は間接の構成員の行う農業に必要な施設の用に供すると認められる場合
- 森林組合、生産森林組合又は森林組合連合会がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその行う森林の経営又はこれらの法人の直接若しくは間接の構成員の行う森林の経営に必要な樹苗の採取又は育成の用に供すると認められる場合
- 乳牛又は肉用牛の飼養の合理化を図るため、その飼養の事業を行う者に対してその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成して供給し、又はその飼養の事業を行う者の委託を受けてその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成する事業を行う一般社団法人又は一般財団法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該事業の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合
- 東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその事業に必要な樹苗の育成の用に供すると認められる場合

(事業・計画の内容)

農地所有適格法人としての事業等の状況（別紙）

【農地法第2条第3項第1号関係】

1-1 事業の種類

区 分	農 業		左記農業に該当しない 事業の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
現在(実績又は見込み)			
権利取得後(予定)			

1-2 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
3年前(実績)		
2年前(実績)		
1年前(実績)		
申請日の属する年 (実績又は見込み)		
2年目(見込み)		
3年目(見込み)		

【農地法第2条第3項第2号関係】

2 構成員全ての状況

- (1) 農業関係者（権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農地中間管理機構、地方公共団体、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社等）

氏名又は 名称	住所又は 主たる事 務所の所 在地	国籍等		議決権 の数	構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				
		在留資格又 は特別永住 者	農地等の提供面積（㎡）		農業への年間従事日数		農作業委託 の内容		
			権利の種類		面積	直近実績		見込み	

議決権の数の合計

--

農業関係者の議決権の割合

その法人が農業（労務管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間

年	か月
---	----

- (2) 関連事業者（法人から物資の供給又は役務の提供を受けている者等）

氏名又は 名称	住所又は主 たる事務 所の所 在地	国籍等		議決権 の数	取引関係等の内容（法人との連携について農商工連携法等の法律 に基づく認定を受けた場合は、法律の名称、当該認定を受けた年 月日、認定計画の期間満了日及び取引関係等の内容）
		在留資格 又は特別 永住者			

議決権の数の合計

--

関連事業者の議決権の割合

【農地法第2条第3項第3号関係】

3 理事、取締役又は業務を執行する役員全ての状況

(1) 農業（労務管理や市場開拓等も含む。）への従事状況

氏名	住所	国籍等		役職	農業への従事状況（年 か月）		農業へ常時従事の有無	
		在留資格 又は特別永住者			直近実績	見込み	直近実績	見込み

その法人が農業（労務管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間 年   か月

(2) 「農業への常時従事」が有ると記載された理事、取締役又は業務を執行する役員の農業への従事状況

（該当する期間を役員等ごとに、直近実績は「<—>」、見込みは「<---->」で示してください。）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間												
その者が農作業に常時従事する期間												

（「農業に常時従事する期間」とは、その期間、必要な農作業（耕うん、播種、施肥、刈取り等）にいつでも従事できる状態にあることです。）